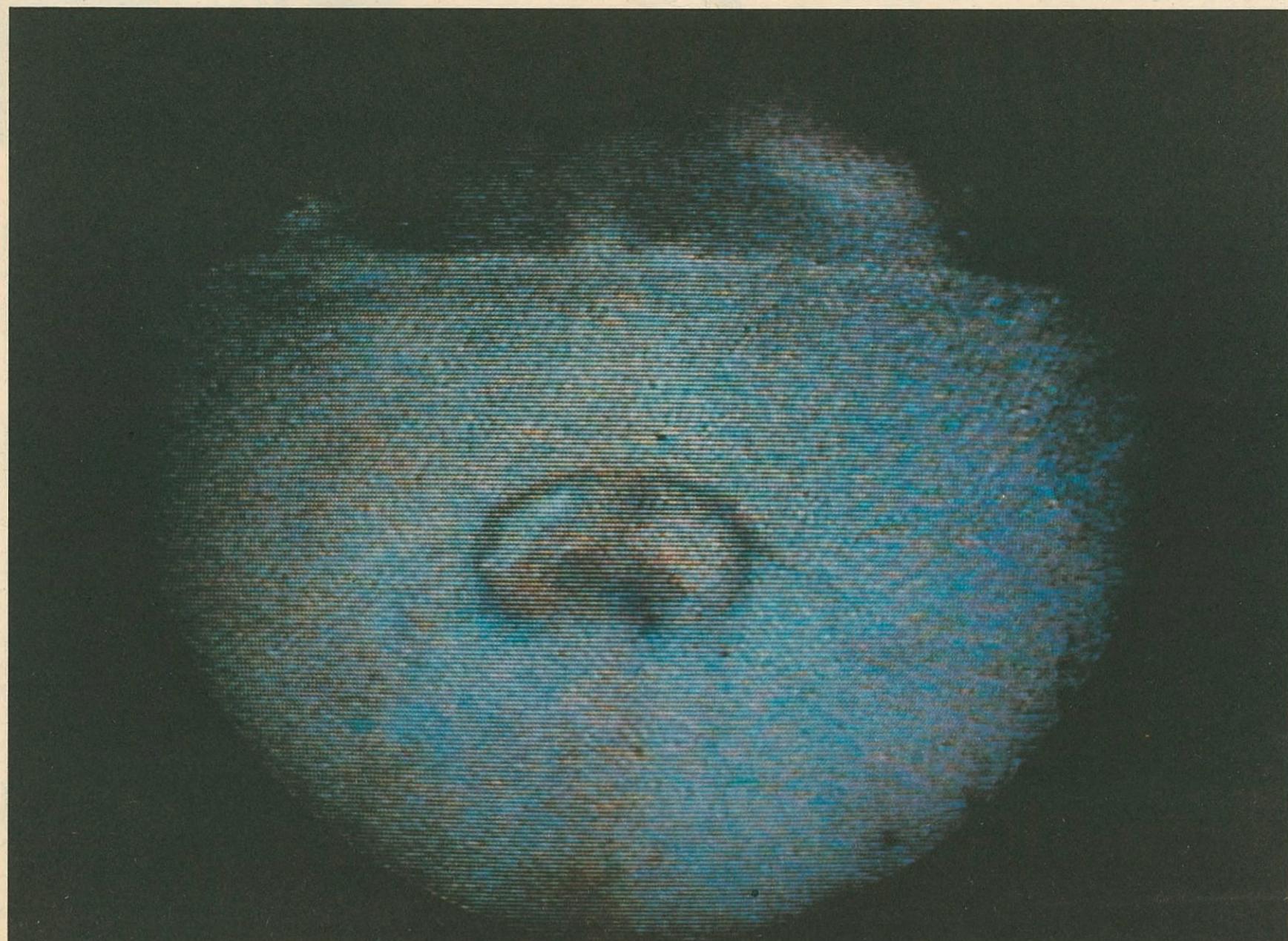


THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

関西大学通信

関西大学広報委員会
大阪府吹田市山手町3丁目



キトラ（亀虎） 古墳の石椁の北壁に描かれている玄武図（NHK提供）

この考え方方は少なくとも二千数百年以前に確立し、それがわが国にも伝わり、現在の私達の生活の中にも生きている。犯人のことを「ホシ」と言うのも、大相撲の土俵の四方に方色の房をかけるのもなこれに由来する。したがって、キトラ（亀虎）古墳の石櫛の北壁に玄武図が描かれているということは、原則として四方の壁面に四神図が描かれていたことになる。あえて原則的にといふのは、中国の唐代の墳墓において、甬道すなむち入口通路に描かれる場合、東の青龍と西の白虎のみを描くことがある。しかし、南の朱雀と北の玄武が描かれて東西が省略された例はないし、そうしたことはあり得ない。今回も玄武図だけが見えたということで、他は省略されているのではないかという意見もあったが、そのようなことはまずあり得ない。

次に困った問題は、再び「聖なるライン」という奇妙な発想が浮上したことである。これは藤原京の中軸線の南延長線上に天武・持統陵、文武陵、さらに高松塚や中尾山古墳、今度のキトラ古墳などが一列状態に並んでいる。だから重要だという。これは高松塚で壁画を発掘したとき一部の研究者によって喧伝された。

実はこの発想は今から約六十年前の大正十二年六月に当時の高市郡役所から刊行された『奈良県高市郡古墳誌』に述べられた見解である。だが「聖なるライン」が成立しないのは、仮にこの線上に乗る古墳があつたとしても（実際には高松塚や中尾山古墳は西側に大きくずれて乗らないしキトラ古墳も乗らない。そこでラインをやめて、ゾーンという言葉で記されることもある。）鬼の雪隠・姐や牽牛子塚、マルコ山古墳などは全く別なところに所在する。そうなれば同じ地域にあって、同じ時代に築造された古墳のうち、聖なるラインに乗るといわれるものと全く乗らないものがあるという事実をどう説明するのであろうか。ほんと乗るであろうという古墳だけを挙げるならば、乗らないものに乗らない理由を説明しなければこの見解は成立しない。いうなれば自分の都合のよい資料だけを選んで挙げ、障害となる資料をすべて抹殺するのは学問的ではない。

中国の思想では、夜空にきらめく星を星辰とみなし、きわめて政治的に解釈する。その星辰と地上の生きる人間とのつながりを考える。つまり、天上の星辰の中央を、国土を統治する天子の紫微の星座とみたて、分野説に基づいて、それを中心として東方、南方、西方、北方の四方に各七宿の星座を設定する。

さらに四方それぞれの星辰から東方を龍に、南方を鳥すなわち雀、西方を虎、北方を武すなわち龟（亀蛇合体）の図形を描き出す。これに東は青、南は赤すなわち朱、西は白、北は玄すなわち黒色という方色を付加し、東は青龍、南は朱雀、西は白虎、北は玄武とする。

一スコープによる撮影ということであった。

やがて、モニターテレビに北壁の玄武図が映像として映し出された。最初、映像は不鮮明であったが、それが四神のうち北を鎮める玄武であることは容易に知ることができた。これによって史上はじめての試みが成功したことと、飛鳥檜隈の地には高松塚以外にも壁画の描かれた古墳があることが確認されるという成果があった。さてモニターテレビに映った玄武図とはどのようなものであろうかを考えてみたい。

その直後にキトセ古墳の遺存が知られ、NEDO総合技術研究所の三久・木村博士は、この古墳の構造を解説した。私が終末期古墳の通例的な構造を説明したのは昭和五十四年の十二月であった。以来して下さることになった。私が終末期古墳の通例的な構造を説明したのは昭和五十四年の十二月であった。以来実験は試行錯誤を繰返しながら続けられ、今回やっと実現をみたのである。

壁画古墳で有名な飛鳥高松塚の南方約一・二キメートルの奈良県明日香村大字阿倍山の地籍にキトラ(亀虎)古墳がある。ここに古墳があることは地元の人たちと若干の関係者は知っていたが、周知の古墳ではなかつた。去る十一月七日、史上はじめてといわれる先端技術を使っての古墳探査、すなわち発掘という行為でなくして、ファイバースコープを使用し、石部内部の様相をモニターテレビの映像によつて探査するということが試みられ、一応の成功をおさめることができた。

その経過は、約五年前の昭和五十三年三月に私たちが同じ飛鳥桧隈の地にあるマルコ山古墳の発掘調査を行つた。そのときも試みにファイバースコープを使って内部を探査したことがあつたが、当時は器材そのものが十分でなかつた。

キヒラ(亀虎) 古墳の探査

網干 善教

飲み方ひとつで 刷染の客……では
ないけれども、飲
み方にもお国柄が
出てくるようだ。
米国のパーティー
では——といって
も象の耳に一寸触
れただけだが——
各自好みのドリンク、好みの調
合をウェイターに注文する▼日
本の宴会では、独創的は祭物、と
いうより、わびしさの象徴。自
分の欲求を満たすためにこそ、
まず相手を満足させる。相手が
注いでくれば「欲しがついて
るのだ」と「察する」のが日本
の常識。しかも猪口は小さいと
きている。注じて注されつ相互
依存を確認するという次第▼地
獄の住人は柄の長いスプーンを
扱いかねて御馳走を全部こぼし
てしまうが、極楽の住人は鍋の
向こうの他者に食べさせ、また
食べさせてもらう、と基本的欲
求の充足すら他者に依存する
“美德”を説く日本の説教を米
国人社会学者に紹介したら、
“ピューティフル”と笑われた
▼幼少時の“おじいさんは、ばん
ちゃんから‘ひとさまにも、よく
しき。そしたら、ひとさまもお
前を見捨ててしまい’と教えら
れる。一九三年わが国に翻案
された『イソボのハブラス』で
も冬、食物をどう蟻に対して蟻
たちは「少しの食を取りさせて戻
いた」。もちろんこの結語は
原典にあるはずもない▼日本は
今、世界一安全な国として、大
望という美德が犯罪という悪徳
を促している「自由」の国アメ
リカから、「光は東方より」と
言われるほどに熱い視線を浴び
ている。この「安全」が日本的大
な相互依存（相互監視）、温情
主義（謝罪する者を寛大に許す
ことによって更生を期待する相
互信頼）にあることは否めな
い。他方で、相互依存の網の自
中のでの窮屈な生活も、わが國
の“悪徳”として定評のあると
ころ。牛を殺さずに角を焼める
道や如何。

昭和59年1月17日

店頭での笑い

笑いを人間と人間との関係の中でとらえると、笑いは秀れて「ヨニケーション」としての意味をもっている。ある魚屋さんの店先で、威勢のいい声が響く。

「奥さん、今日は新しいてええもん入ってまつせ」

「いっつもしないで言うてるやないの」と奥さんもすぐにはりない。

「水タコ、どないだ」と魚屋の大将は手でつかんでみせる。

「なんか、もひとやな」

「おいしそうまつせ。ちょっと見ればね、おばあちゃんのおうちに似てまつげよな。味はよろこびますわ」

「ねてんはまだ、真だとまたいに張りきってますわ」

「えらいすんまへん。そんなら真なで……」

あそこのおうちやん、冗談もうまいし、おもしろいことなると、同じ買物をするのでちつい足がそろに向いてしまうのだ。

会議でのユーモア

会議の席上でも、意見がまとまり、皆がうさぎりしている時、誰かがユーモアの一つも出し

てくれ、笑わせてくれる。それ

はず、すっと議事を次へと進めり

とだつて出来るのである。

一九八二年の「フォーランド

医者と患者

医者には大体無愛想な人が多

い。二コットとするどころか、こち

らがたずねても返事もしてくれな

い人がいる。しかしながら医者も

もろいことをいわれますね」

医者は大体無愛想な人が多

い。二コ